

県内主要温泉地における外国人の宿泊動向 ～今後の外国人誘客や満足度向上に向けて～

群馬経済研究所 研究員 稲田純也

調査のポイント

県内主要温泉地の宿泊客数は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）によるマイナスの影響からの回復途上にあり、今後、台湾や中国等における自国に帰国する際の制限が緩和されれば、外国人宿泊客数の更なる回復が期待される。本調査ではヒアリングを通じて、今後の外国人誘客や満足度向上に向けて必要な取り組みについて考察した。

要約

- 22 年の県内主要温泉地の宿泊客数は約 326 万人（コロナ前の 19 年比▲14.9%）だったが、月別でみると、徐々に 19 年同月比のマイナス幅が縮小しつつある。
- 22 年の外国人宿泊客数は約 1 万 4 千人（19 年比▲85.4%）だったが、月別でみると、22 年 10 月の水際対策の大幅な緩和以降は持ち直しの動きがみられる。
- 19 年の外国人宿泊客数の地域・国籍別内訳について、草津温泉と伊香保温泉は台湾、水上温泉郷はタイが最多だった。水際対策の大幅な緩和以降をみると、各温泉地ともに台湾および中国の割合が低くなっており、戻りが弱いことが分かる。
- 今後の外国人誘客や満足度向上に向けては、①ターゲットとする国・地域ごとに有効なプロモーション内容の検討、②多様な文化・習慣に対応した受入環境の整備、③地域一丸となった個性ある観光地域づくりが必要となろう。